

































金子手崎防備衛所

この施設は昭和16年に構築された施設で戦時中大島海峡に潜水艦の進入を防ぐため防潜網並びに、機雷等を布設し、潜水艦の接近を監視し、更に進入した場合、機雷を爆破させる施設で、これ等はすべてこの防備衛所でコントロールされていたのである。

瀬戸内町























弾薬格納庫
小銃、機銃の弾薬を格納するため
大正9年頃に旧陸軍が構築した建
物だったが太平洋戦争時は主に旧
海軍が兵器庫として活用していた
瀬戸内町















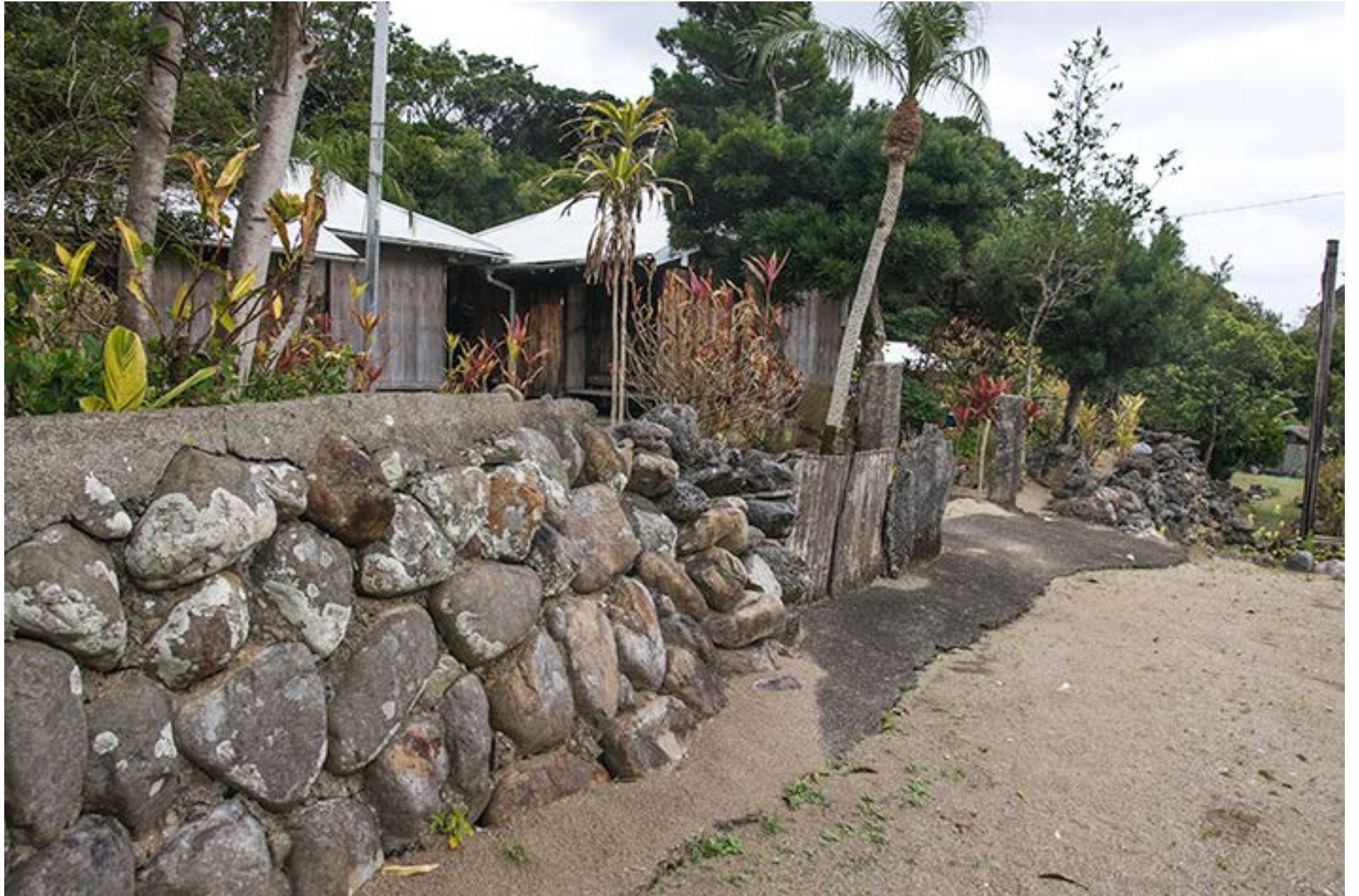










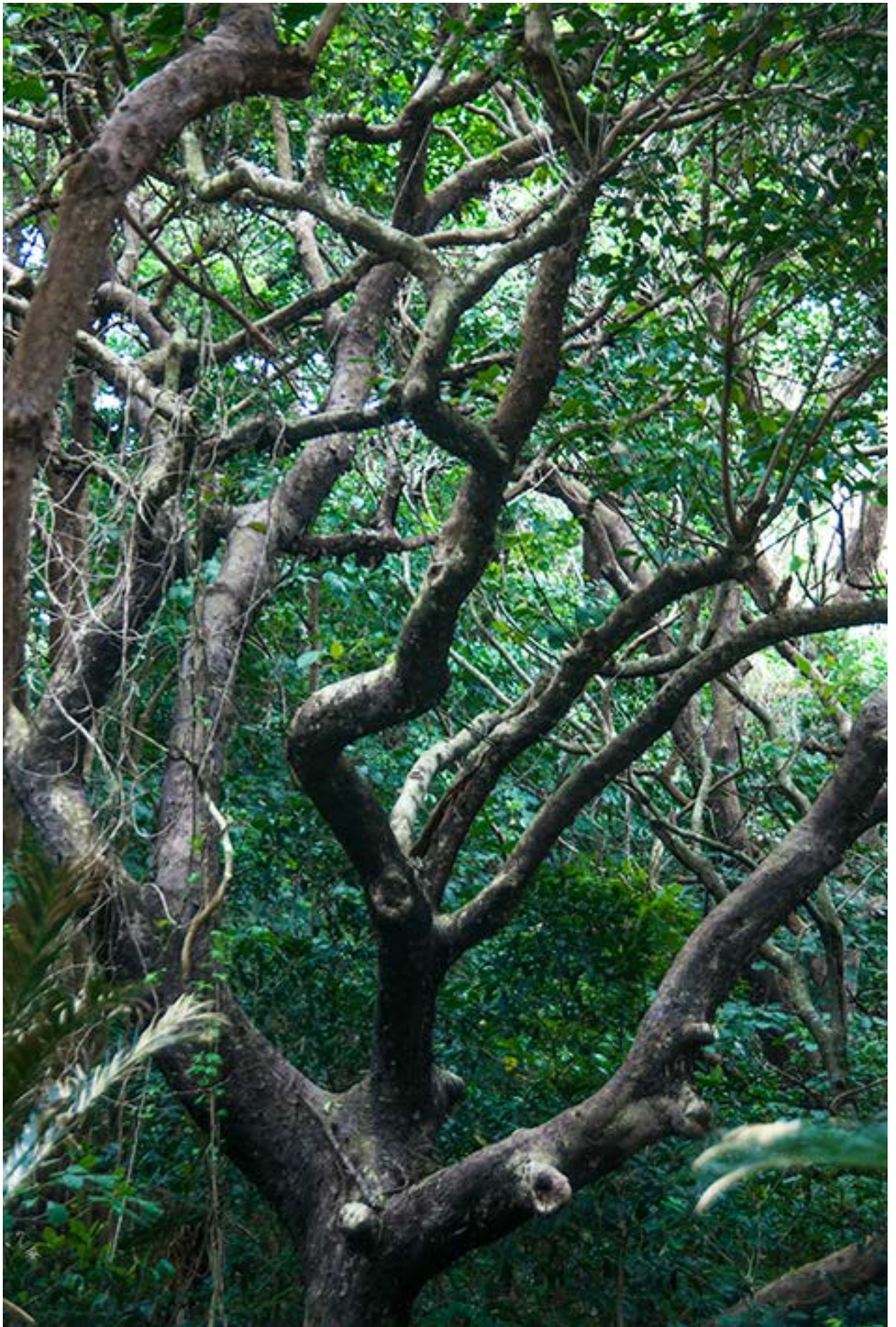


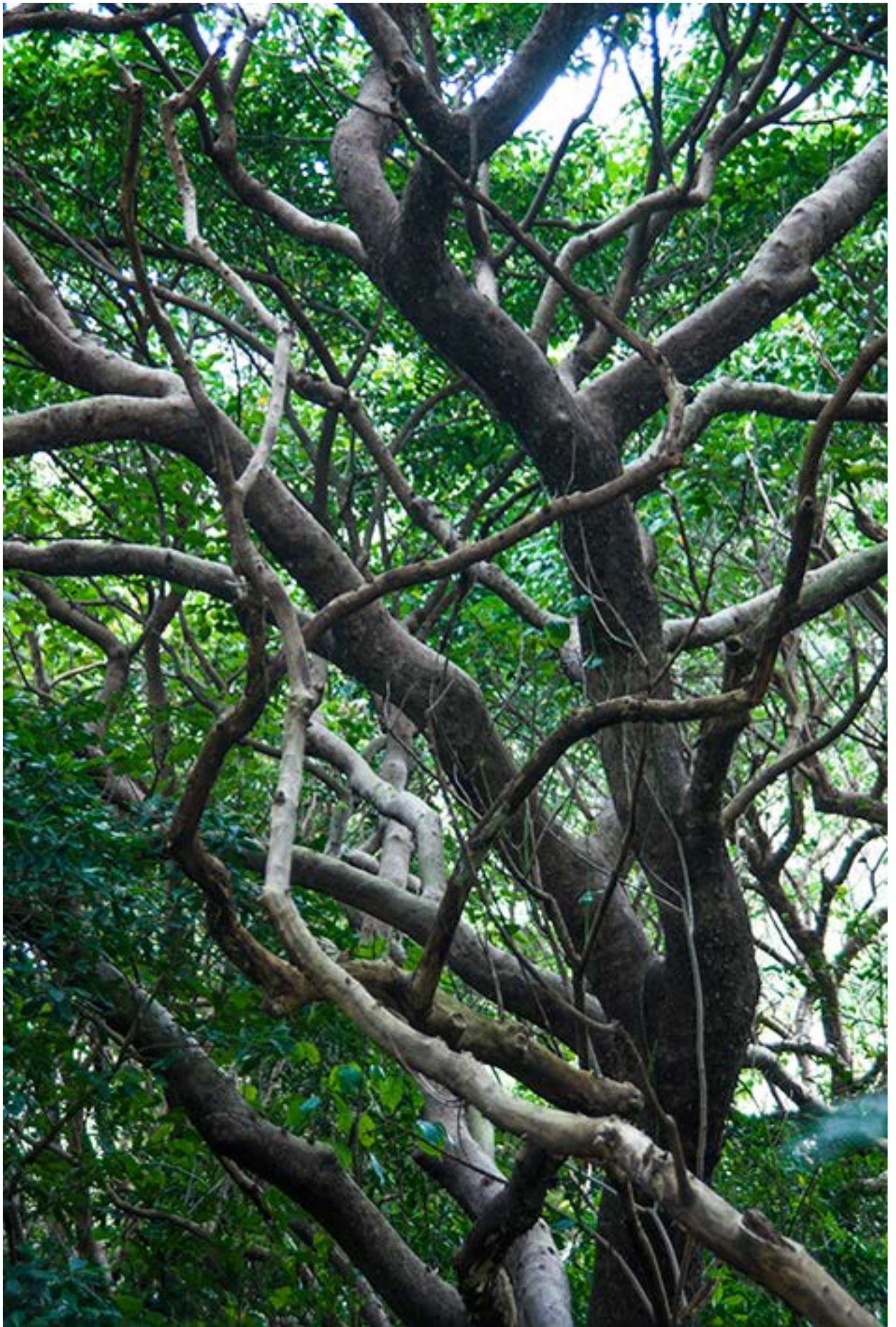






















待網崎農村公園

Guide in garden

園内のご案内

お散歩マップ



※この先には、トイレはありません。「展望所」もしくは「実り家ハウス」横にあるトイレをご利用ください。

この公園は、県営中心開地
地域整備事業（農林水産省
健康補助事業）加計各森地区
の一環として、地域住民と行
政がワークショップ（話し合い）
を行い、連携して作り上げた
自然と歴史の継承をコンセプ
トとした公園です。

園内の特徴として、太平洋
戦争中に設置された旧海軍の
高角砲台跡等の戦争遺跡が存
在する場所であり、碑の展望
台からは、コバルトブルーの
大島海峡と太平洋を臨む視野
300度の絶景が見られます。

展望所まではゆっくり歩い
て15分程度、季節によっ
ては、ムリカケス、アカショウ
ビンなどの鳥の鳴き声が聞
こえます。是非、癒しのひと
ときを味わってください。















渡連集落案内

渡連集落は、琉球王府・薩摩藩時代より現代までの歴史をとどめ、村全体が貴重な文化財である。

かつて、琉球・薩摩藩統治時代は、東間切渡連方（ひがしまぎりどれんほう）と呼ばれ、その役所がこの地に在った。

生間からの集落入口小勝よりの墓地には、琉球軍による諸鈍征伐時の副将「磨文主（まぶんしゅう）」一族の墓が現存し、町内では最も古い墓と記録されている。享保十八年（一七三三）、渡連方与人「文仁演（ふにえん）」が代官北郷伝太夫の汚職の一部始終を薩摩本国に差し出した越訴（おこせ）により、喜界、大島本島、徳之島など全都の島役人を巻き込む大騒動に発展した事件（文仁演くすれ）が起こり、代官の遠島、役人の獄死、島役人が免職になるなど奄美史に足跡を記した集落でもある。

その他現存する文化財

上殿地（ウントノチ）・旧渡連方役所跡

ゴンゲン様（相撲の神様）の還座所

ミッテンガナシ（お産の神様）



















